

## 保育の本質から見て

組分け保育か！  
合同制保育か！



鈴木 豊藏

の条件によって組分けし、保母はそのどの組かを受持ち、責任をもつて保育していくやり方で、この方法は最も多く用いられていると思う。これをかりに、組分け制保育法といつておく。

その三としては

子供の組分けはしておくが、各保母は固定した受持ちというものがなく、ある組を一週間とか二週間とか、一定期間保育すれば、他の組に順次交替して行くやり方である。この方法をとっているところは少いと思うが、これを交替制保育法といつておく。

以上二つの場合の保育の仕方をあげたが、人かの保母が、共同して保育するというやり方である。この方法をかりに、合同制保育法と名づけよう。

その二としては、その反対に児童を年令別とか、心身発達の程度とか、その他いろいろ

### 二 合同制保育の吟味

合同制保育法は、季節託児所などに用いられた方法で、保育法としては、便宜的初步的な方法かも知れない。交替制保育法も本質的に見て、合同制保育と大体似たものである。

この保育法は、施設全体を有機的な一箇の

保育の場とし、全職員が一丸となって保育に当る方法で、各保母は、施設全部の子供を一視同仁に見、どの子供に対してもみんなで責任をもち、公平に愛し公平に保育していくと

いう大層結構な方法のようである。この方法だと、何人かの保母の中、一人位欠勤しても大した支障もなくやつていいけるし、保母の労力も比較的均等になることであろう。しかし

全体的保育の中心となる方と、従属的補助的立場に立つ保母に分れることも確かである。

どの子供の問題であろうと、その責任は保母全體にかかるわけで、子供の怪我、何か事件が起きた時の処置、父兄との折衝、家庭訪問など、ことごとく保母全體が、公平に責任を負うことになる。然し、いざという場合、最後は主任保母のところにいくことになるだろうから、その他の保母は比較的軽い気持ちでおれるかも知れない。

これは、比較的小さい保育所で行われる方法かと思うが、色々の面から検討して見ると相当欠陥の多い方法だと思う。その点は、次に述べることによって、自らはっきりするとと思うので、ここでは述べないことにする。

### 三 組分け制保育法にしたい

前に述べた方法には、それぞれの長所短所があると思うが、保育の本質から考案すると第二の組分け制保育が最も優れた方法だと思う。この方法は、一人の保母が、受持つた子供の全部の責任を引受けで保育する方法ではあるが、常に施設全体としての有機的運営に注意し、お互に連絡提携し、協力することを忘れてはならない。

保母が、施設全部のどの子供も、公平に愛し、公平に保育し、施設全部の子供について責任をもつということは、言葉の上では如何にも結構のよう聞くが、実際にはなかなか六ヶしいことである。どの子供も平等に愛しているということは、どの子供も愛していない、どの子供にも責任をもつということはない、どの子供にも責任をもつていいという結果になり易いのである。

1 保育の本質から見て 保育の対象はあくまで個人々々の子供であって、子供一人一人を立派に保育し育成して行かなければならぬのである。それには、子供一人一人をよく理解し、それに適応した保育をしなければならない。ところが、子供一人一人を見ると、からだの弱い子強いて、腺病質の子、しらみたかり、知能の優れている子、精神遅児、ボス的存在、おとなしい子、乱暴な子、盜癖あるもの、はにかみや、うそつきの名人と数限りもない。全く十人十色であり、万人万様である。

これ等の子供を、正しく理解することは容易なことではない。少くとも自分の受持つた子供についてだけでも、一人一人について、生れる前から今日までの生活歴を明かにし、その環境、特に人的環境、病歴等を調べ、同時に知能、性格、興味、向性等、科学的方法によつて観察し、実験し、テストして、身体的にも精神的にも、その個性をつかまなくてはならない。そのためには、家庭を訪問し、色々親から聴取し、必要によっては医師にも相談し、ケースワークもしなければならない。

2 保育所の家庭化から見て 元来、保育所に措置される子供は、家庭において、保育に欠けるところのある子供たちである。朝起きて食事をすまし、急いで家庭から送り出され、夕方は帰つて食事をすると、眠むくなるて寝てしまう。『家庭は、文明の所産の中、最も高い美しいもので、子供の精神と性格の基礎が形成されるところだ』と、いわれてい

一面、保母はこまやかな母性愛をもつて包容し、指導する必要がある。愛情をもつて、子供の喜びを喜び、悲しみを悲しんでやつてこそ、保母に対する信頼感が高まるてくる。そうすると子供は、自然心安らぎして来先生の宅を訪れ、或は話し或は遊んで行くようになる。『先生は、昨夜あんたがこんなよいことをした夢を見たよ。嬉しくてたまらなかつた』とか、『今朝は、あなたがよい子になりました』とか、『先生は、あなたがよい子になるように。神様にご飯を上げて拝んだ。それからはあんなことしないのね』と、親しみ深く話合う間に、心と心、人格と人格が融け合つて、手におかない子供も、遷善、感化することも出来、問題児も問題児でなくなってしまう。このような保育をするには、合同制の保育では到底望み得ない。

いるのに、単に食事をとつて寝るところに過ぎない。このように家庭的に恵まれない子供であるから、母親としては、たまの休の日には、どんなに忙しくとも、子供のために時間を割いて、温かい家庭的情味を味わわせてやるよう、何とか工夫してやるのが親の義務ではないか。

保育所としては、この欠陥を補うために、

不十分ながらも、家庭代りの役をつとめなければならない。その家庭代りの役目を果すところは保育室である。保育室は、施設の母と慕われる保母が中心となり、愛情をもつて結びついた家族であり、家庭であります。嬉しいこと悲しいこと、何があつても飛びこんで来て、母代りの保母に報告し、喜憂を分ち合ふ慰安の場所でありたい。食事を共にし、眠くなればみんなで午睡もする。こうして、保母が何から何まで面倒を見てやるところに、家庭化の実があがる。合同制保育や交替制保育では、到底このような本質にふれた保育は望み得ないのである。

次のようなことが書いてあつたのを、興味深く読んだことがある。これなども組分け制受

持の重要性を裏書きしたものだと思うので参考のため掲載する。

『戦争中、東京の愛育会幼稚園では、戦争が激しくなり空襲されるようになったので、何人かの保母さんと、一団の児童が地方に疎開した。そして子供等の一団を、数名の保母さんが共同して、公平に世話をすることにしたのである。

ところが数日たつと、子供達がだんだん元気がなくなり、ホームシックのようになってしまった。保母さんはどうしたものかと心配したのであるが、指導者の森脇さん(心理学者)の考えで、次のような処置をとった。今度は幼児たちを保母さんの数に分けて、一人の保母さんが特定の子供だけを世話するようにした。そして、出来るだけ家庭の親子関係に近いものにし、例えば、保母さんが時々東京に行くことがあるが、帰りにはお菓子などのお土産を持って来たら、自分の受持ちの子供だけに分けてやるというようにした。そんなにしている中に、子供たちはだんだん生氣をとり戻し、元気な態度を示すようになってきた。』

こんなに萎れた子供たちを、よみがえらせ

る慈雨は、家庭的情味であり、保母の愛情であつたのだ。

(福島県立高等保母学院教諭)

### 3 疎開児童保育の実例

或る雑誌に、

次のようなことが書いてあつたのを、興味深く読んだことがある。これなども組分け制受